

会議録様式

審議会名	令和3年度第4回杉戸町立図書館協議会
開催日時	令和4年3月24日(木) 午後2時00分～4時00分
開催場所	杉戸町立西公民館 研修室
会議の議題	(1) 図書館・公民館図書室利用者アンケートの結果報告について (2) 令和3年度1～2月の運営報告について 図書館サービス計画の報告、電子書籍の導入、西公民館の最終報告、3月の事業、コミュニティセンター図書室について (3) その他
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開(公開の場合傍聴者数7名)
	(非公開の場合理由)
出席委員氏名 (敬称略)	荻原 俊文、正司 顯好、濱田 幸子、室伏 加代子、山口 和子 寺崎 恵子、馬場 茂明
審議の概要	1 審議事項
	(1) 図書館・公民館図書室利用者アンケートの結果報告について (2) 令和3年度1～2月の運営報告について 図書館サービス計画の報告、電子書籍の導入、西公民館の最終報告、3月の事業、コミュニティセンター図書室について (3) その他
	2 審議の概要
	(1) 図書館・公民館図書室利用者アンケートの結果報告について (小暮館長より説明) 委員) 図書館利用者アンケートの問11の中に記載されているような「パソコンで本の検索をして書かれている番号の本を探すのに苦労する。」という意見はそれほど多くなかったか? 事務局) 現在、書架に設置されている請求記号の案内板について、見づらいという意見をもらっている。しかしながら書架の枠の大きさは決まっているので、文字やフォントを変えても恐らくあまり変わらない。現在委託会社職員との話の中で、案内板の上に新たな案内板を張り付けてしまった方が良いのではないかという話になっている。今まで見栄え等の問題もあって設置すべきか悩んでいたが、ボードを大きい数字を並べることで対応するか、調整中である。 また、館内マップについてだが、現在館内入口付近にA1版ほどの大きさのマップを設置している。それを利用している利用者もいるが、見づらいという意見もあるので、何か立体のようなもので作成出来ないかと相談しているところである。 委員) 表示は見栄えよりも利用しやすさだと思う。OPACで検索し

て、検索結果が出て分類記号が分かった、さあ資料を探そうとなった時に、現状はどこの書棚に探しに行くのか全く見当がつかないという状況。細かい表示まではいらないと思うが、OPACで資料検索をして、あの書棚に行けばいいんだなとように、あくまで資料を探す糸口として、あの書棚に行こうと目指せるような表示があれば、より資料が探しやすくなるのかなと感じた。

事務局)現状書棚の表示については相談中という事で、現状ボードを貼るのが一番現実的だと思っている。そちらは調整して行いたいと思う。

委員)公民館図書室のアンケートの問5だが、対象者が公民館利用者として書いてあるのに対して、選択肢8の利用したことがないというのはどういうことなのか。例えば公民館に来館はするが図書室を利用しないという回答なのか、初めて図書室を利用したという回答なのか、その選択肢が1番多かったのが気になった。また、図書館利用者であるはずだが、利用目的がサークル活動のためと書かれている箇所があった。そもそもサークル活動のみをしている人はアンケートの対象外なのではないのか？書き方が初めて利用したとかなら分かるのだが、どういった経緯でこの選択肢が生まれたのか？教えてもらいたい。

事務局)今回公民館の利用者にアンケートを取らせてもらったのは、サークル活動をしている方にも図書室について聞いてみて、本当に本に対する興味がないのか、利用したいが資料が古くから利用しないのか、その辺りを知りたかったのでサークルの利用者にもアンケートを配布した。

委員)アンケートの対象者区分と中身の整合性が取れていないと思ったので質問した。

委員)今回のアンケートの対象者は「公民館図書室利用者」のみではなく、「公民館利用者」という事でよいか？

事務局)相違ない。

委員)公民館を利用している方の図書室利用について、我々としても把握しきれていない部分もあると思うので、次回以降どのような形になるのかは分からないが、アンケートの集計方法については検討してもらいたいと思う。

(2) 令和3年度1～2月の運営報告について (張ヶ谷主査、佐藤主事より報告)

① 図書館サービス計画の報告(意見なし)

② 電子書籍の導入

委員)図書館サービス計画にも盛り込まれていた電子書籍について、思いのほか早く進んでいる気がするが、いつまで臨時交付金

を使うことが出来るのかについては不安なところもある。

委員) 臨時交付金について、いくらもらえたのか？

事務局) 初期費用等を全て合わせて約 1,000 万円となっている。

委員) ランニングコストはどのくらいかかるのか？

事務局) 月額 5 万円の予定。イニシャルコストは 70 万円。その差額を電子書籍のコンテンツの購入に充てる予定となっている。

委員) 選書の方法としては、パッケージか何かになっているものを選ぶのか？

事務局) 電子化されている十何万冊という書籍のデータが掲載されているエクセルのリストがあり、その中から蔵書構成が偏らないように、また、利用者に手にとってもらえるような選書を行いたいと考えている。

委員) 紙の書籍とのバランスを上手く考えてもらった方が良いと思う。やはり直接手にとって読む本と、電子で読む本というのは違うような気がするし、ターゲットにする層も違うと思う。出来るだけ無駄になる書籍が無いように選書してもらえるとありがたい。また、町民から意見を聞くというというのはどうか？

事務局) 電子書籍になった利点としては、いわゆる返却の必要がないという事が 1 つある。その利点を生かして、例えば貸出の多い資料や予約が大量に入る資料を選定するというのも 1 つの方法かと思う。ただし電子書籍自体が杉戸町としても初めての事例となるので、そういった意味では様々な方から意見を聞いて、購入を決定したいと考えている。

委員) オーディオブックというのは電子の新しい取り組みの中に入ってくることはないか？

事務局) Amazon の提供している Audible(オーディブル)のような機能のことか？

委員) そのようなものである。現在様々な書籍が Kindle 版などで出てきているが、それと変わらないと思う。需要としてはあるのではないかと思う。

事務局) 委員の言っている機能は朗読 CD ではなく、好きな時に再生したり停止したりして、場所や機器なども縛られず好きなところで聞けたりする、ネットでつながっているようなそういった環境のことを言っているか？

委員) その通り。

事務局) 導入するにしてもかなりの金額がかかると思うので、今後

の検討にさせてもらいたい。

委員)それ以前にビジネスモデルがあるかどうかも確認する必要はあると思う。ただ現実的には既にオーディオブックを使っている人もいるので、そういう媒体もあるということも選択肢の一つではないか。柔軟に考えてもらったらよいと思う。

③ 西公民館の最終報告

委員)1～2月のイベントで多目的ホールを使ったイベントが2つ(カルスタ劇場、図書リサイクル会)あるが、今現在はまたワクチンの接種会場になっているのか？

事務局)現在は接種会場になっているので使用できないのだが、1月末までは多目的ホールを使用できたので、カルスタ劇場、図書リサイクル会については日程を急遽前倒しして、開催した。

委員)今後のワクチン接種会場としての予定というのは決まっているのか？

事務局)7月末まではワクチンの接種会場として運用されることが決まっている。現時点ではそれ以降の予定については決まっていない。国の方針等によりまた変わってくるかと思う。

委員)現状、令和4年度の7月までは諸室の使用が出来ないということが分かっているという事で良いのか？

事務局)相違ない。

委員)学校に赴いて行うブックトークも、まん延防止等重点措置が発令されていなかったからできたのか？

事務局)今回開催した高野台小学校のブックトークについては、まん延防止等重点措置が発令される前から日程調整を行っており、発令された際も、ブックトークを開催するか否かの確認をした際に、開催してほしいとの要望があった。しかし他の日程調整中の学校は不安なので今回はやめて来年度以降にお願いしたいとの話があったので中止となった。

委員)現状、まん延防止等重点措置が終了しているので、新年度はブックトークを行えるか？

事務局)学校によって判断がまちまちなので、確実とは言えない。まん延防止等重点措置が発令されていなくても外部から人を入れてイベントを開催することに慎重になっている学校もあるので。

委員)図書ボランティアを西公民館で行っている。おはなし会で使用する本に関して、事前に選書するときは前もってリクエストをして資料を届けてもらっておいて、読み合わせしてというような運用をさせてもらっていたりしている。本番に読む本はなるべ

く団体内の私物で持っている本を使用するようにしたり、図書館からなるべく借りるのを避けることにして、手持ちの本で大方は間に合わせられるような運用をしている。大型本などの特殊な本などは取寄せてもらったり、練習期間があるのでその辺りを調整して借りていることもある。西公民館で読み物のおはなし会をしたときは意外と絵本好きな方も多く、お子さんがおはなし会の前に図書室に行って、結構な冊数の絵本を返却して、おはなし会に参加して、帰りにまた絵本を借りて帰るという光景もよく見かけた。私たちは読み物のおはなし会は1年生～3年生くらいを対象としているが、年齢が上がってきた子たちは、自分で選んで読み物を読んでいる。そういう意味では資料をこれからも充実させてもらおうとよい。新しい本が増えたので利用は多くなったのではないかなと思う。年齢が上がっても自発的に本を読めるように、私たちがそういった本を選んでいきたいと思うし、そういった本を揃えてもらえるとありがたいと思う。

委員)西公民館の話ではないけれども、1月30日に図書リサイクルというイベントを実施した。ホールが使用できるギリギリの日程で1日だけだったが、今回はおおよそ230名の方に来場いただき、カンパも3万2千円以上をいただいた。そのカンパを使って図書館の方で資料を購入するという事になった。前は複本の購入は基本的にしないという事だったが、おはなし会で使っている本を読みたい子たちがいるという状況を受けて、複本があった方がよいという事になり図書館と相談している。

事務局)図書リサイクル会だが、1月30日にギリギリの日程になってしまったものの、無事開催することができた。当日はおおよそ230名の方にご来場いただいたという経緯がある。また、リサイクルのお金やカンパについて積み立てたものがたまったという話を受けて、資料を購入ことにした。今まで複本は購入しないという方針を取っていたが、定番本や名作絵本などについては複本があつてしかるべきだという意見や、借りに来たのに絵本が貸出中で無いという事象も多くあったので、現在は揃えつつある。ただボランティアの方などが使う場合だと一般の方が長期間借りることが出来ない、一般の方が借りたケースだとおはなし会で使用しようとしたが貸出中で借りられないという事もあった。そのため相談の上、ボランティアの希望の絵本を集計している。中にはすでに5冊複本があるだとか、本館に3冊あるだとかそういった本もあるので、その本に関しては購入せず、他の本を購入するようにしている。今チェックを行っているので、もう少し時間が欲しい。

委員)この約3万円カンパについては、図書館友の会が主体となつてやっていると思うが、毎年コンスタントにこのくらいの金額が集まっているのか？

委員)大体同じくらいの金額は集まっている。基本的には図書館まつりの中で行っていたが、ここ1～2年図書館まつりが中止となっているため、寄贈された本が日に日にたまって寄贈本を置く場所もなくなってきたので、ホールを使用できる日という事で1月30

日に1日だけ図書リサイクル会を行った。毎年3万円くらいのお金がたまっていて、今回だけではなくもっと前から集まっていたお金がたまっていたので、まとめて本を購入できると図書館に伝えて、準備してもらった。

委員) 図書館だけではどうにもならない問題というのはあると思うので、友の会やボランティアなどと協力して、全体としてサービスが向上すればそれでよいと思う。

④ 3月の事業

委員) 本と野菜の出逢いマルシェの雨天の場合の販売スペースは屋内にという事で、屋内とはどの辺りを想定しているか？週末は天気があまり良くないようだが。

事務局) 図書館の記載台が設置されている付近で行う予定。今週は天気が崩れそうなので、天候に応じて行う予定。

委員) 是非こういったイベントは参加人数に関わらず、継続していてももらいたい。新規事業を始めた時になかなか人が集まらないのは世の中の常である。1回でめげないでもらいたい。特に図書館を使いこなそう講座の方は直接的に図書館サービス計画にも絡んでいる話なので是非パソコンに限らず、スマホの使い方も兼ねて、前半はスマホの使い方、後半はWeb OPACの使い方という風に一般企業(Docomo や au など)とタイアップしてみるのもよいと思う。是非柔軟に考えてもらいたい。本と野菜の出逢いマルシェについてもアグリパークゆめすぎととの提携で町の活性化につながる事業だと思うので是非継続してもらいたい。

⑤ コミュニティセンター図書室について

委員) コミュニティセンター図書室のカウンターについて幅はどれくらいあるか？貸出は自動貸出機を使用するのだろうが、返却・レファレンスなどを全てこの1つのカウンターで行うという事か？

事務局) 相違ない。

委員) 業務を行うにあたり、この広さで十分か？

事務局) 建築士が角スケールで測ったりすると実寸が分かるのかもしれないが、現状は分からない。カウンターがもう少し広い方がよいという事か？

委員) どう見ても図書室の機能を果たすにはカウンターが狭すぎるような気がしてならない。

委員) カウンターが壁面まで空いているのか、壁面をくりぬいたよ

うな作りなのか、壁があるのかどうかは図面からは判断できない。

事務局)壁はある。カウンターの部分だけ壁をくりぬいたような作りになっている。

委員)事務室というのは、コミュニティセンター全体の事務を行う部屋という事か？

事務局)相違ない。

委員)個人の意見としては、事務室と図書室の間に壁がない方が良いのではないかと思う。

事務局)付帯の部分であるとか、レイアウト変更が可能か不可能かという部分については、これから詰めていく中で決まってくるので、ご意見として頂戴する。

委員)セキュリティの問題があると思う。死角が出来てしまう構造はよろしくないので、見通しの良い状態にした方が良いと思う。例えばこの図面やイメージ通りに資料を並べたとすると、図面の右下辺りがこのカウンターの間口だと完全に死角になると思う。その辺りは考慮してもらいたい。

委員)話を聞いていて西公民館事務室を思い浮かべた。事務室に図書の事務を行うカウンターと公民館事務を行うカウンターとがそれぞれあり、コミュニティセンターの窓口もそういう感じなのだろうかと思ったのだが、そういうイメージでよいか。

事務局)図書室側と反対側にそれぞれカウンターがあるので、その認識で間違いないと思う。図書室側は図書業務、反対側は諸室の貸出業務を行うカウンターという事だと思う。西公民館と構造は一緒だと思う。

事務局)まだ決まっているわけではないので、水色のカウンターでも本の貸出が出来てほしいとかそういう要望か？

委員)可能であればお願いしたい。しかしそれよりも図書室の方がもっとオープンになってもらいたい。実際、今西公民館でも貸出・返却を行っているわけだが、返却した紙芝居や大型本などを確認してもらっているのだが、カウンターが狭く、確認は事務室の中に本や紙芝居を持って入って行っている。これが顔を突き合わせてその場で一緒に確認できるようになるとよいと思う。団体に限らず個人の方でも多くの本を借りたり返したりしているので、そのたびに事務所の奥で作業をするというのは時間もかかる。折角新しく作るのであれば、その辺りを考慮してもらえると作業にあたる職員にとっても違うのではないかと思う。

委員)書架の向きがこの通りにいくのかどうかは分からないが、置き方を工夫した方が良いと感じた。このまま書架を置いてしまう

とどういふ図書室になるのかというのはいメージがつかないが、個人の意見としてはオープンな感じには見えない。カウンターから見るとどうしても陰になる部分は多くなってしまうのでそういう意味では、自由に出入り出来、貸出等も行える図書室として、書架の向きはかなり工夫していった方が良くと思う。

事務局)ご意見として頂戴する。

委員)このコミュニティセンターにする目的、設置する目的がにぎわい創出だったはず。今この資料を見た所、にぎわい創出をする箇所はどこなのだろうか。一部民間施設という場所もあるが、2階は全て多目的室や講座室で貸室となっている。コミュニティセンターの設置目的のにぎわい創出をこの中でするとしたら、図書館が何とかしなければならないと思う。折角図書館で「Fresh! Saturday 本と野菜の出逢いマルシェ」のようなイベントをしているのだから、そのにぎわい創出になる何かが出来る図書室でなければと思う。今他の委員が言ったように図書室が全くオープンな感じがしない。もっと図書館はこれだけできる、人を集められると意見を言ってほしい。本当にきちんとした図書室を作っていれば自然と人は集まるはず。駅から近いし、人が集まって来るので、そこをもっと図書館がアピールしたらいいと思うのだが。今このコミュニティセンターの設計図を見たところで人がこれで集まるのかなと、すごく不安を感じる。

事務局)にぎわい創出という部分は、図書室だけであるとか、建物だけという訳ではなく、その周りにある広場であったり、様々な公園であったり全部を総合して町のにぎわい創出であると考えている。そしてその一部として図書館もにぎわい創出を担うということで、図書館でこういったことが出来るというのは、様々な貴重なご意見をいただいていることから、繰り返しにはなるが町の会議などで館長や職員などが出席をして話をしている。しかしながら、図書室のスペースが決まっている中で、実現可能なもの不可能なものを現状洗い出している状況である。住民協働課の中にコミュニティセンター担当を新設されるので、その担当と社会教育課とで協議をしながら決めていきたい。にぎわい創出についても併せて進めていきたいと思っている。

委員)先ほどより様々な意見が出ているカウンターと事務所の設計についてだが、今までの既存の公民館とは違う開かれたオープンな図書室にする、これがキーワードだと思う。開かれた空間を作ることによって、にぎわい創出にもつながっていくだろう。事務所とカウンターの設計というのは非常に重要になってくるのではないか。それが外のふれあい広場にもつながるし、シンボルツリーのある空間にもつながっていくのでは。事務室の在り方について、カウンターや図書室この辺りの考え方というのは非常に大事なポイントになってくると思う。それと、初めに出てきたように、公民館はサークル活動を1つの目的として、来館される方が多いと聞いた。その公民館活動あるいはサークル活動の為に来館した人たちがこういった雑誌、専門書などを読んでみたいだとか

意見を出すような形で、公民館と図書室それぞれを連動させて図書室にどんどん人が集まって来るようにというような視点も必要ではないかと思う。

事務局)今の意見については、参考とさせていただく。アンケートの中でもあった通り、図書館利用者アンケートを公民館利用者に対して依頼したときに、図書室を利用したことがないという回答がとても多かったという事で、指摘を貰っている。今申し上げた団体の利用者もふと通った時に、興味が湧くような図書室に向けて、どのようなことが出来るか、これは今後図書館職員も含めて施設の開館までに十分協議等をさせていただくことを考えているのでご理解いただきたい。

委員)資料を見たときに、子育て支援の場所であるとか、小学生が遊べるスペースなどが2階に配置されているのだなと感じた。エレベーターがあるので大丈夫だろうという事なのかもしれないが私達を含め、一般のサークルの人たちが本や荷物などを持って2階に上がるのはなかなか厳しいのではないかな。そういう意味では1階に多目的ルームを配置した方が良かったのではないかなと感じる。ただしエレベーターにしる階段にしる、図書室の反対側に設置されている。コミュニティセンターで遊ぶために来館した人たちが、2階から帰るときに、何とか図書室に寄ってもらえるように掲示などを工夫する必要があると感じた。そうすれば遊びだけのコミュニティセンター利用にとどまらず、図書室利用にもつながるのではないかな。場所的に奥の方になってしまっているので、何とか図書室へ流れてもらえるように誘導してもらいたい。基本的に遊びが終わったらすぐ帰ってしまうと思うので、なるべく図書館の情報を目に入るようにしてほしい。

委員)前回の協議会の時に、コミュニティセンター図書室が本館の分館になることを皆希望していたかと思うのだが、その辺りの変動はあったのか？

事務局)分館化については、2月の教育委員会会議において、委員の方からいただいた答申の報告をした。教育委員会として、町部局に答申の内容を伝えたところ教育委員会としてはどう考えているのかと聞かれた。そのため、教育委員会会議において、分室・分館にするにしても施設の職員や運用にあたって必要になってくる諸経費がきちんと整わないと迂闊に分館化するとは言えない。現状の人数の中で、どのような契約をするのかであるとか、そういった土台がきちんと整うのであれば、分館化してもよいという回答をした。分館化については良い事であるという話はしているが、最終的には町部局がどう判断するかという事にはなってしまう。なので今現在はまだ確定していない。その辺りはご理解いただきたい。またコミュニティセンター図書室については議員からも一般質問が出ている。当初は公民館の機能をそのままという事で教育委員会は動いていた。そのままの公民館を残してほしい、それが出来ないのであれば同等の機能を兼ね備えたものを作ってほしいということで意見を出している。なので公民館図書室と同じ規模のものを最低限作るようにという事で、建設計画が進んでいく

中でせっかく作るのであればもう少しいいように作ろうという要望であったり希望であったりをもらったので、図書室についても、当初の考えに比べてかなりグレードアップしていることは間違いない。

委員)今の教育委員会の形式がどうなっているかは分からないが、以前は直接町長と会議を持つこともあったし、その場で要望を出すこともあった。その時にはもっと図書館だけでなく学校図書も含め、より良い図書を求めたいので、その為に、人と予算をまずはお願いしたいと教育委員会の方から要望を出してはいたはず。なので「町の方で用意してもらえたら」というような受け身の姿勢ではなかった。その辺りはどうなのか。

事務局)それについては当初の町の状況と、今の状況とこの施設を作っていくにあたって段階があり、社会教育課(図書館)としての意見を出している。しかしながら町全体のことを考えて、教育委員会としての意見を言う段階の中で現状があるという事はご理解いただきたい。この前も団体の方から要望書をもらっている。その時にも話をしたが、常に要望等については担当としては前向きに要望を受け止めて、意見として挙げさせてもらっている。しかしながら町の政策であったり、様々な状況の段階を踏んでいった中で、中々要望を100%叶えることが出来ないという部分もあるので、その辺りは申し訳ないがご理解いただきたい。そしてコミュニティセンター図書室について、意見として強く押すところ、妥協することなどを繰り返しながらより良い方向に向かうよう、努力をしているので、何も行動を起こしていないわけではないという事も併せてご理解いただきたい。

委員)町側でそういった事情があるということも分かってはいるし、予算の制限もあるし、要望がそうそう通るわけではないということも分かってはいるが、しかし、あくまで教育委員会としては人や予算などの環境が整ったらやらせていただくという事ではなくて、率先して教育委員会がそれでも言い続けてもらいたい。今回はコミュニティセンター図書室についてであるが、それ以外も学校図書との関係であるとかという事もあったかと思う。担当や課の枠を超えて動いてもらいたい。例えば、町内の保育園などに行く機会があるが、そこにある本はかなり古く、ボロボロである。町内にあるそういった本については出来れば予算や人を増やしてもらって、図書館の目が届くように、杉戸町にある本という本は図書館が見ているというように将来的にはそういったところも目配りが行き届いてほしい。主体となって本を集めるのは保育園や保健センターでもよいが、おすすめ本の紹介や古くなった資料の管理などが将来的にはできるようになってほしい。確かに現状は厳しいと思う。コロナ対策もあり、予算もかなりそちらに割かれていると思う。ただ姿勢としてはそういう姿勢を率先して見せ続けてもらいたい。図書館担当にだけやるように言うのではなく、教育委員会も協力する、守る、その為の手当てをするという姿勢を見せてほしい。かなり多い仕事量を時間と労力とかけて西公民館の資料の購入についても行ってもらった。私達ボランティアに対してもどのような本が欲しいか聞いてくれてありがたかつ

た。しかし、希望した本の中には絶版となってしまった本もあった。そういう本を自分の時間を使って個人的に探してくれていたりだとか、そういう事もしてくれていることも分かっている。そういったことに対してもっと教育委員会、上の人がフォローしていただくかそういう姿勢が見えれば応援しようという気持ちもわいてくる。それを見ている更に周りの一般の人が…という風に輪が広がって応援がきたりすると思う。是非そういった目を持っていただきたい。

事務局) そういった図書館運営をしていくのが理想だと思う。担当課として長年人員・予算について毎年、希望・要望を出しているが、他課の政策との優先順位の兼ね合いもあるのでなかなか新たな予算をつけてもらうことが難しい。しかし3月議会で長年要望を出してきた電子書籍についての予算案が可決されたので、引き続き事務局としても努力は重ねていきたいと思っている。

委員) 話が少し戻るのだが、公民館図書室の利用者アンケートをとったという事について、図書室のアンケートなのに公民館を利用されている人にアンケートを配布したとの事で、これは非常に有意義なことだと感じた。やはり利用者全体になるので、どうしても図書室を利用しないという人が多数いる。今持っている力だけで可能性を開くとすれば、例えば公民館それぞれの特徴あるサークル活動があると思う。そのサークル活動の人たちと、図書室がどのように手を結んでいけるかという意味での対話を重ねていくことが必要だと感じた。また、別紙の図書館の利用統計も児童書の貸出件数が去年に比べて動いているところが多いというのは好ましい事である。児童書の貸出が増える背景には恐らく子育てをしている世代の利用がある。その世代の人たちにも伝わるような繋がり方をするであるとか、例えば公民館で絵本などもそうだが、子育てをしている人たちに向けてさりげなくフォローしていけるような本の利用の仕方という事があってもよいと感じた。なので今度新しくなるコミュニティセンターの意味合いというのはかなり大きくなる。杉戸町という町づくりの中で、どのようにしたら杉戸町が様々な世代の交流を生み出していく拠点になっていくか、世代だけではなくて様々な文化を持っている人たちの拠点になっていけるかどうかにかかっているかと思うので、そういう意味では今できることをする、現状公民館を利用している人は多いと思うので、その利用者の方と、今度は本を繋ぐということは今既にできるのではないかと思う。そこはアンケートの協力をしてもらって、町はアンケートの要望を聞くだけではなくて対話を重ねていくそういった動きをしていくと、今持っている力で新しいことが出来るのではないかと思う。もう1点は若者世代、主に中高生だが、中高生に対するサポートが少し弱いように感じる。なので子育て世代のことも大事だが、家庭でも少し難しい時期にあたるのでそういう人たちが家でも学校でもないどこかということで自分なりにやっていた場所というのが公民館であり、コミュニティセンターであったりする可能性は十分にあると思う。なのでもう少し若い人たちにも考慮することが必要だと感じた。

委員) にぎわい創出のためにコミュニティセンターを作りたいと

のことで、杉戸町は具体的には何を变えたいと思っているのか？それは既存の建物では創出できなかったからこういうコミュニティーセンターを作りたい、リニューアルすることでここを変えたいという理由が必ずあるはずである。町の大きな財源を使って行う事業なので。それを教育委員会としては、町部局からはどのように聞いているのか？

事務局)まず、東口駅前通りの開発と旧杉小跡地を一体化して町の入口ににぎわい創出するものを作って居住人口を増やす。それから杉戸町の顔として新しい政策を行うにあたって教育委員会が言われたのは、中央公民館をとり壊して新たな施設を作るという投げかけ、そこからどういう風に教育委員会として施設を今後作るのかという事。全体的な話としては様々な意見が出ているが、町の政策としてにぎわい創出について色々話し合っている。教育委員会としては、建てた建物に対してどうするか、保育園施設も入るので、そういった部分になると子育て支援課であるとか、そういったところで担当の職員の話の聞いたりして、教育委員会としては図書室運営をいかににぎわい創出に含めた形でどういうことが出来るのかというのは今後担当する課と協力してより良い運営をしていけたらと思っている。

委員)にぎわい創出のための図書室に变えたいのだと、だから教育委員会の方で考えてほしいというような強い考えはあるのか？

事務局)皆さんの出された強い要望については、出来る限り、会議で毎回伝えている。

委員)教育委員会の立場は分かる。だけれども、そこを主導する町当局によって新しい建物だけ作り変えても、それだけであれば人は集まらないと思う。中身が大きく変わっていかなければその中身をどのように変えたいのか？町としてどのように考えているのか？そこがまず核になって、発信していくのだと思う。例えば、アグリパークゆめすぎとというのは杉戸町の中では成功している例の1つだと思う。あれだけ多くの人たちを町内外から呼び集められる施設や空間というのは、個人的に成功している例だと思う。社長が次から次へと様々な新しいことを打ち出していくという風に聞いている。そういうものを発信する力、そしてそれを具体的に空間を使ってアピールしていく力がないといくら建物だけ綺麗になっても、人は集まらない。にぎわい創出にはつながらないのではないかという風に思ったので、町当局として何を大きく変えたいのかが伝わってこない。折角これだけ重要な財源を使うのでその理由を聞いたかった。

委員)先週末に東武動物公園の東口・西口で民間企業の方がイベントを行っていた。そういったイベントというのは町に情報として入るのか？

事務局)情報として入る。町にイベントを担当している課があるので。杉戸側(東口)については、創業支援事業として月3万円くらい稼ぐ仕事をしながら裾野を広げていきたいと思いますという講義を

10 回ほど行い、その講義の最終として 3・2・1 の市などを行っている。町からの補助も出ている。宮代町側でも折角開催するのであればという事で東武鉄道などに掛け合って開催したという経緯がある。今後はどんどん町が綺麗になっているので、今後宮代町ともコラボレーションをしていけたらとは考えている。

委員) 現在は新型コロナで出来ないが、以前はマルシェをやったり屋台を出したりしていた時期もあったので、今後状況が改善されればそういったことを積極的にやってもらって、町に情報がきちんと入っているのであればその情報を上手く使って是非とも盛り上げてもらいたい。

委員) 町はこれだけの予算をかけて新しい施設を作るのだから、中途半端なものを作るのが一番もったいない。そういう意味では図書室もこれから 20 年、30 年と使っていけるような良いものを作ってもらいたい。多世代の方がそれぞれの世代でも有意義な読書活動が出来るようなものを是非作ってもらいたい。結局お金がないから出来ないとなってしまうと中途半端なものが出来てしまって将来的に負の遺産になってしまうようなものを作ってしまうのが一番勿体ない。今が一番のチャンスだと思うので是非お願いしたい。

委員) 今の図書館の書架などは工夫してもらっているが、つまり今の設計で出来てしまって棚が動かせなかったり、そういったことがあって使いにくいということが起きているので、その時々用法に合わせて実弟に職員がこういう風にしたいんだとなった時に動かせたり手を加えられたりする形にしてもらいたい。

事務局) その時代に合わせてカスタマイズできるようなイメージか？

事務局) 棚について床に埋め込まれている。棚を移動式にするのは難しい。

委員) 確かに図書館はそうだが、新しく作るコミュニティセンター図書室は動かせる形に出来ないか？

事務局) 確かに動かせた方が良いが、移動式が難しい理由として、地震等の災害が起きた時に移動式の棚だと被害が大きくなる可能性がある。固定されていない棚で本が入った状態で棚が倒れることを想定すると、難しいと思う。

委員) 埋め込み式で場所を動かさないのなら、なおのこと最初の書棚の位置が大事になって来るのではないか。より一層考えてもらいたい。入館した時に見渡せるという事が大事だと思う。後は手を入れる場所を工夫して展示を行ったりしてもらいたい。

委員) 現在 100 年杉が何本かあるのだが、それを伐採するのか？ 今明治神宮でも樹齢数百年の樹木を再開発のために伐採して問題に

なっていたりする。長い歴史を見てきた杉を伐採してしまうのはいかなものか？そういったシンボルツリーを「杉戸町」の「杉」の木はしっかりと残しながらこの空間をにぎわい創出していけるようなそういう考え方をしてもらいたい。

委員)意見として頂戴する。

委員)今回の答申の中に入れさせてもらった意見なのだが、分館化については教育委員会としては合意が得られたと認識して良いか？

事務局)出来れば分館化した方が運営はしやすいが、すんなり分館化はしないと思う。答申として挙がっているという事は伝える。整備が整えばという事にはなってしまう。

委員)人員や予算の問題がクリアできれば教育委員会としては分館化してもよいということか？

事務局)相違ない。

委員)コミュニティセンター図書室については、にぎわい創出の施設としての大きな目標があると思う。図書館というのはそういった部分の核となるというのは他の委員も言っているが、全国の事例もたくさんある。なのでぜひその辺りは研究をしてもらって、町部局の職員も知っているとは思いますが、図書館にもにぎわい創出するためのメリットがあるということを積極的に図書館として、教育委員会としてアピールをしてもらいたい。また、図書室はにぎわい創出のためにどういった位置づけで入っていくのか？他の委員からも話はあったが、どういう層をターゲットにするのがベターなのか、しっかり研究してもらいたい。